学部生

島根大学教職課程
教職履修ポートフォリオ
（法文学部･総合理工学部･生物資源科学部･医学部）

取得希望免許教科（科目）	
取得希望学校種	□中学校のみ　□高校のみ　□中・高校両方 ※中学校免許希望の場合 ＜介護等体験＞※数理科学科以外は 3 年次予定 □令和　年度予定（3 年次） □令和　年度予定（4 年次） □その他（　　）

所　属	学部　　学科
学生番号	
フリガナ	
氏　名	
在籍期間	令和　　年 4 月入学　～令和　　年 3 月卒業（見込） ※以下は該当者のみ記入してください。 □　留学（休学）予定 □交換留学（休学無し）　□私費留学（休学：□有　□無） ＜　　年　　月　　～　　年　　月頃　留学予定＞ □　4 年次の教育実習を延期する場合 □卒業後科目等履修生として実習予定 □5 年次に履修予定
備考	

目次・チェック欄（学部生）

※目次は、ファイルの一番前に綴じ、提出時に□の項目を確認の上チェックを入れてください。

提出	提出時期	記載箇所	備考
1	2 年前期	□表紙（ファイルの表面に貼付） □目次・チェック欄 □A 教職・教科に関する学修の自己評価 ・（Ⅰ）～（Ⅴ）・・・目安を参考に自己評価と合計を数値で記入 □B 教職・教科に関する学修の履歴 ・2 年次前期・・・1 年次の振り返りと 2 年次の目標を記述 □C 履修状況一覧 ・1 教職に関する科目　教職概論（1 年次に履修した場合記載） ・2 教科に関する科目　1 年次に履修したものがあれば記載 □E 自主的な活動　一覧・資料 ・1 年次で参加した活動があれば記載（水曜倶楽部，公開研究会等）	・この順番で綴じてください。 ・E は教職に関わる活動で、自主的に経験したものを積極的に記載しましょう。
2	3 年前期	□A 教職・教科に関する学修の自己評価 ・（Ⅰ）～（Ⅴ）・・・目安を参考に自己評価と合計を数値で記入 □B 教職・教科に関する学修の履歴 ・3 年次前期・・・2 年次の振り返りと 3 年次の目標を記述 □C 履修状況一覧 ・1 教職に関する科目　2 年次に履修した科目を記載 ・2 教科に関する科目　2 年次に履修した科目を記載 □D 活動の履歴＜3 年次に介護等体験を予定している者のみ＞ ・1-1 介護等体験前：社会福祉施設・特別支援学校の両方記入 □E 自主的な活動　一覧・資料 （2 年次で参加した活動があれば記載（水曜倶楽部，公開研究会等））	・差し替えをするときに、綴じ漏れがないよう確認してください。 ・C について漏れのないよう記載すること。
3	4 年前期	□A 教職・教科に関する学修の自己評価 ・（Ⅰ）～（Ⅴ）・・・目安を参考に自己評価と合計を数値で記入 B 教職・教科に関する学修の履歴 ・4 年次前期・・・3 年次の振り返りと 4 年次の目標を記述 □C 履修状況一覧 ・1 教職に関する科目　3 年次に履修した科目を記載 ・2 教科に関する科目　3 年次に履修した科目を記載 □D 活動の履歴 ・1-1 介護等体験前：社会福祉施設・特別支援学校の両方記入 ＜4 年次に介護等体験を予定している場合のみ＞ ・1-2 介護等体験後 ＜3 年次に介護等体験を終了した場合のみ＞ ・2-1 教育実習前（教育実習を延期する人以外全員記入） □E 自主的な活動　一覧・資料 （3 年次で参加した活動があれば記載（水曜倶楽部，公開研究会等））	・差し替えをするときに、綴じ漏れがないよう確認してください。 ・C について漏れのないよう記載すること

4	実習終了後 (7 月又は 11 月)	□A 教職・教科に関する学修の自己評価 ・（Ⅰ）～（Ⅴ）・・目安を参考に自己評価と合計を数値で記入 □D 活動の履歴 ・1-2 介護等体験後：4 年に介護等体験を終了した場合記載 ※提出時にまだ終了していない場合は「○月体験予定」と記載 ・2-2 教育実習後 □E 自主的な活動　一覧・資料 （前回提出後に参加した活動があれば記載）	・差し替えをするときに、綴じ漏れがないよう確認してください。

※「『教職実践演習』の履修及び『教職履修ポートフォリオ』の提出について（説明資料）」は末尾に綴じること。
※最終年は、前期と実習終了後の 2 回ポートフォリオの提出があるので注意すること。
※毎回「教職履修ポートフォリオ評価・コメント一覧」に教員のコメントが入ったものを綴じて返却します。
※返却時期は掲示でお知らせします。教職を途中で断念する場合も必ず受け取りに来てください。

A 教職・教科に関する学修の自己評価

Ⅰ～Ⅴに挙げられている各項目は、教職課程で皆さんに理解し身に着けてもらいたい項目です。1年ごとに自己評価をしながら、学習を進めていきましょう。

Ⅰ～Ⅴについて、前回提出時からのあなたの学習や生活（2 年前期の提出時には、昨年 1 年間の学習や生活)を振り返り、これらの項目について知識を身につけたり、能力を高めたりするための行動を行ったか、「知識・理解」面・「行動・実践」面のそれぞれからページ下部の自己評価の目安を参照し、自己評価を「1～4」で記入して下さい。合計欄には、Ⅰ～Ⅴそれぞれについて自己評価の数値を合計し記入して下さい。これらの自己評価は、成績には反映されません。

Ⅰ 教職に対する理解や使命感に関する内容

		2 年前期	3 年前期	4 年前期	実習終了後
①公教育の目的、学校や教員の社会的な役割と使命について	知識				
	実践				
②教職の職業的特徴と今日の教員に求められる資質能力について	知識				
	実践				
③教員の職務内容の全体像や服務上・身分上の義務について	知識				
	実践				
④教員として高い規範意識や倫理観を有し、人権感覚を高めることについて	知識				
	実践				
	合計	/32	/32	/32	/32

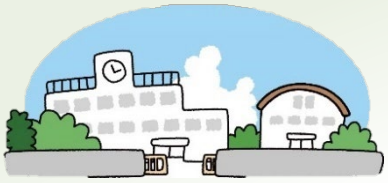
※「行動・実践」面について自己評価が難しい項目については、空欄のまま提出しても構いません。
※合計欄には①～④の自己評価の数値の合計を記入しましょう。

KEYWORD　公教育の歴史と学校の使命

皆さんは、自身が受けてきた教育が社会全体にとって、どんな役割を持っているか考えたことはありますか？

中世以前、人々は、暮らしや職業を通じて物事を学んでいました。しかし、産業革命以降は仕事の機械化や分業化が進み、人々が仕事や生活の中で学ぶということが難しくなっていきました。そこで、人々が知識を得、科学技術や経済をさらに発展させられるよう教育の専門機関「学校」が国家によって整備されていきました。

一方で、公教育には全ての人の「学ぶ権利」を保障し、誰もが同じ人間同士として尊重し合う、自由で平等な社会の土台を作るという大きな使命があります。悲しいことに、現在も社会では差別や迫害がなくなっておらず、自分自身の可能性を最大限に開花させられないような状況もあります。学校には、子ども達がそれぞれの人生を主人公として切り開いていけるよう、「どんな子も見捨てない教育とは何か」を問い続け、ダイバーシティを実現していくという忘れてはいけない使命があるのです。



Ⅱ 生徒理解・学級経営・特別支援に関する内容

		2 年前期	3 年前期	4 年前期	実習終了後
①生徒の発達段階や、心身の発達に関する適切な対応や指導を行うことの理解について	知識				
	実践				
②生徒指導を進めていくために必要な知識・技能の理解について	知識				
	実践				
③学級経営の意義と教師が果たす役割の理解について	知識				
	実践				
④特別な支援を要する生徒の障がいや特性への適切な配慮、対応の理解について	知識				
	実践				
⑤多様な生徒が共に学べる教育を実現し、すべての生徒の学びを保障することについて	知識				
	実践				
	合計	/40	/40	/40	/40

※「行動・実践」面について自己評価が難しい項目については、空欄のまま提出しても構いません。また、学級や指導場面に限らず、日常生活であなたが周囲に働きかけたことなどに置き換えて回答しても構いません。
※合計欄には①～⑤の自己評価の数値の合計を記入しましょう。

KEYWORD　生徒の多様性を理解し学級経営に生かそう

大学生の皆さんに、学級(クラス)の中での経験を思い返してもらった時、多くの人が一種の「同調圧力」を感じていたり、自分の考えを押し殺したことがある、と話してくれます。確かに日本の学級は、同じ地域であったり、生まれ年が同じ子どもたちが集められた「同質性の高い集団」であり、そのため、一人ひとりが見えにくくなったり、集団から「異質」と思われ居心地の悪い思いをしたり、ひどい場合にはいじめが起こってしまうといわれます。

実際は、学級の中にも様々な考えやルーツ、特性を持っている子がいるはずです。例えば、学ぶモチベーションや目指す進路の違い、海外にルーツのある子や、家庭環境の違い、さまざまな障がい、興味・関心、得意不得意などは、それぞれです。「自分と同じように感じている人は周りにいない」「周りに合わせられない」と孤独を感じていたり、「周りに合わせなければ…」と悩んでいる人も多いはずです。自分の意見を押し殺してしまっている子がいないか、間違いを恐れて、学修に取り組めていない子がいないか、目を配ってあげてください。「その子独自の意見」や一見すると「間違い」のようなことが、他の子にとっても学びの種になることも多く、生徒の多様性を理解し生かすことは、学級がみんなが過ごしやすい居場所にするためにも重要です。

Ⅲ 社会性・人間関係構築能力・学校内外との連携に関する内容

		2 年前期	3 年前期	4 年前期	実習終了後
①多様な生徒たちと人間関係、信頼関係を築くことについて	知識				
	実践				
②教員としての職責や責務を自覚し、目的や状況に応じた対応や行動をとることについて	知識				
	実践				
③校内の教職員や多様な専門性を有する人と連携・協働することについて	知識				
	実践				
④保護者や地域の人々と良好な人間関係を築くことについて	知識				
	実践				
	合計	/32	/32	/32	/32

※「行動・実践」面について自己評価が難しい項目については、空欄のまま提出しても構いません。また、学級や指導場面、保護者や地域の方との関係に限らず、日常生活であなたが周囲に働きかけたことなどに置き換えて回答しても構いません。

※合計欄には①～④の自己評価の数値の合計を記入しましょう。

KEYWORD　連携・協働が支えている日本の教育

教育は、普遍的な価値をもつ重要な仕事であると同時に、常に改善を目指してクリエイティブに取り組まれるべき仕事です。近年、日本の学校文化が築いてきた「学び合う組織の関係性」が国内外から見直されています。日本の学校では、校長先生や教頭先生などの管理職を除く多くの先生が、それぞれの役目や担当を持ちながらも対等な立場であり、互いに学び合いながら、子ども達の教育とその改善に向き合っています。大学を出てすぐの新採の先生であっても、担任を持ったり、授業をしたりと、責任のある立場に置かれるため、不安もあるでしょうが、受け持っている生徒や校務分掌に真摯に取り組み、「教育をよくしよう」という思いを強く持っていれば、その姿を見て協力してくれる方が必ず現れます。

また、教師は校内だけでなく、保護者や専門機関、社会とのつながりを持つことを忘れてはいけません。人と人とのつながりの大切さを日々実感し、「周りを巻き込む力」を日ごろから培ってほしいと思っています。子ども達や親御さんの声をよく聞き、解決策を探る際にもなど、一人ひとりとよく向き合い、時には「人と人との間を取り持つ」ことがとても重要です。連携や協働によって、よりよい教育のためにできることの幅がぐんと広がるということを覚えていてほしいなと思います。また一人で抱えすぎず、現状を知ってもらうために相談・報告を欠かさずに、そして腐らずに取り組んでほしいと思います。

Ⅳ 教育課程・学習指導要領・教科内容と方法に関する内容

		2 年前期	3 年前期	4 年前期	実習終了後
①専門の教科に関する、中学・高校・そして大学などで取り扱われる内容の理解について	知識				
	実践				
②教科内容に適した教材や、教科内容に関連する身近な現象・事柄の理解について	知識				
	実践				
③学習指導要領に準拠し、自ら指導方法や計画を立案する力について	知識				
	実践				
④生徒自身の学習意欲を引き出し、主体的な学習者とするための方法について	知識				
	実践				
⑤これからの社会を生きる生徒にどのような力を育成すべきかという教育観について	知識				
	実践				
	合計	/40	/40	/40	/40

※「行動・実践」面について自己評価が難しい項目については、空欄のまま提出しても構いません。合計欄には①～⑤の自己評価の数値の合計を記入しましょう。

KEYWORD　真の「授業力」とは―教材理解と子ども理解が授業になぜ必要か―

皆さんは、大学で自身の専門分野の学修・研究を進めていくと思います。中学校・高等学校の教員にとって、教科の専門性は大きな強みになります。教科の専門性が高ければ、授業をする際、カリキュラム上のその授業の位置づけや、実生活や将来にどう役に立つかを的確に把握することができ、「なぜ、子どもたちにこの内容を学んでほしいのか」という目的を、教師自身がしっかり持つことができます。

教師が「教材」をよく理解しておかなければならない一方で、実際に教える場面に立った時には、もう一度「子どもたち」の立場に立って考えてみてほしいと思います。教科書を何度も読んで授業に備えている教師と違い、子どもたちは授業で新しい知識に出会います。そのため、子どもたちは授業の中で「つまずいたり」「勘違いをしたり」「横道にそれたり」します。正答を知っている教師が立てる計画は「最短距離」を想定してしまいがちですが、間違いの中にも学びはあります。間違いはその子がより深く学ぶためのきっかけや、分かったつもりになっているほかの子たちの学びを深めるきっかけにもなります。子どもが「どこでつまずくか」「何に興味を持つか」など、子どもたちをよく理解し、できるだけ多くのパターンを想定しておくことで、「間違い」を生かした授業の展開も徐々にできるようになるのです。

Ⅴ 探究力・問題解決能力・教育課題の認識に関する内容

		2 年前期	3 年前期	4 年前期	実習終了後
①専門の学問分野に関して深く理解するため、自ら問いを立てておこなう探究・研究について	知識				
	実践				
②テレビや新聞のニュースやインターネットなどで取り上げられる教育問題について	知識				
	実践				
③社会を形成する一員として、時代や社会情勢の変化に関心を持ち、学び続けることについて	知識				
	実践				
④自ら教員となるうえでの課題を定め、その解決に向けて継続的に力をつけ学ぶことについて	知識				
	実践				
	合計	/32	/32	/32	/32

※これらの自己評価は、成績には反映されません。「行動・実践」面について自己評価が難しい項目については、空欄のまま提出しても構いません。合計欄には①～④の自己評価の数値の合計を記入しましょう。

KEYWORD　教師として持っておくべき「学び続ける力」「社会を見通す力」

「子どもは親の鏡」「子どもは教師の鏡」といわれるように、子どもたちの前に立つ保護者や教師のふるまいを子どもたちはしっかり見ており、知らず知らずのうちに私たちは子どもたちに大きな影響を与えています。教師になれば、「果たして自分は子どもたちに恥じない生き方をできているだろうか」と何度も考えることになるでしょう。

これから育っていく子どもたち一人ひとりは、まさに未来の社会を作っていく存在です。現在の社会は急激に変化しており、多くの人が同じ仕事をずっと続けられるかはわからず、大人になってもキャリアアップのために、別のスキルや資格を身に着ける必要に迫られることが珍しくありません。もちろん、辛抱強く学び続けるなかで培われる忍耐力や多くの知識は無駄にはなりませんが、学校において子どもたちに育まれるべきは、言われたことを確実に遂行し教えられたことを「覚えこむ力」だけでなく、その場その場において、自ら考え、そして絶えず「学び続ける力」です。教師もまた自分自身に足りないものや社会や子どもたちに接するうえでこれから必要になるものを学び続ける「学びの専門家」であってほしいと思います。

教師として、子どもたちが巣立っていく社会にたいして広く関心を持つことは重要です。教師自身や周囲の大人が「社会の一員」であることを強く意識し、しっかりと現状を把握し、どのようにして課題を解決すべきかを考え、率先して行動に移していく姿勢を子どもたちに示す必要があるためです。そうすることで、子どもたち自身にも「社会は偉い人や権力のある人達で決めるものではなく、自分も社会を構成する一人としてできることがあるのではないか」といった「社会」にたいする関心や「主権者」としての意識を醸成していくことができるのです。

B 教職・教科に関する学修の履歴

２年次前期（１年次の振り返りと２年次の目標）

１年間の振り返りとこれからの目標を記入しましょう。その際、**A 教職・教科に関する学修の自己評価**で記入したⅠ～Ⅴに関する自己評価も参考にして下さい。

積極的に学修をおこなった項目 （該当するものに☑） 複数回答可	Ⅰ 教職に対する理解や使命感に関する内容	☐
	Ⅱ 生徒理解・学級経営・特別支援に関する内容	☐
	Ⅲ 社会性・人間関係構築能力・学校内外との連携に関する内容	☐
	Ⅳ 教育課程・学習指導要領・教科内容と方法に関する内容	☐
	Ⅴ 探究力・問題解決能力・教育課題の認識に関する内容	☐
教職課程での学修を進めるために取り組んだ事柄（箇条書き）とその説明（200 字程度で記述）を記入して下さい。 ※枠の高さや、箇条書きの数は、各自で増やして構いません	取り組んだ事柄（箇条書き） ・ ・	
	詳しい説明（記述）	
課題が残った項目 （該当するものに☑）	Ⅰ 教職に対する理解や使命感に関する内容	☐
	Ⅱ 生徒理解・学級経営・特別支援に関する内容	☐
	Ⅲ 社会性・人間関係構築能力・学校内外との連携に関する内容	☐
	Ⅳ 教育課程・学習指導要領・教科内容と方法に関する内容	☐
	Ⅴ 探究力・問題解決能力・教育課題の認識に関する内容	☐
これから重点的に取り組みたい事柄（箇条書き）とその説明（200 字程度で記述） を記入して下さい。 ※枠の高さや、箇条書きの数は、各自で増やして構いません	重点的に取り組みたい事柄（箇条書き） ・ ・	
	詳しい説明（記述）	

３年次前期（２年次の振り返りと３年次の目標）

１年間の振り返りとこれからの目標を記入しましょう。その際、教職・教科に関する学修の履歴表（１）で記入したⅠ～Ⅴに関する自己評価も参考にして下さい。

<table>
<tr><td>積極的に学修をおこなった項目
（該当するものに☑）
複数回答可</td><td>Ⅰ 教職に対する理解や使命感に関する内容 ☐
Ⅱ 生徒理解・学級経営・特別支援に関する内容 ☐
Ⅲ 社会性・人間関係構築能力・学校内外との連携に関する内容 ☐
Ⅳ 教育課程・学習指導要領・教科内容と方法に関する内容 ☐
Ⅴ 探究力・問題解決能力・教育課題の認識に関する内容 ☐</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教職課程での学修を進めるために取り組んだ事柄（箇条書き）とその説明（200 字程度で記述）を記入して下さい。

※枠の高さや、箇条書きの数は、各自で増やして構いません</td><td>取り組んだ事柄（箇条書き）
・
・</td></tr>
<tr><td>詳しい説明（記述）</td></tr>
<tr><td>課題が残った項目
（該当するものに☑）</td><td>Ⅰ 教職に対する理解や使命感に関する内容 ☐
Ⅱ 生徒理解・学級経営・特別支援に関する内容 ☐
Ⅲ 社会性・人間関係構築能力・学校内外との連携に関する内容 ☐
Ⅳ 教育課程・学習指導要領・教科内容と方法に関する内容 ☐
Ⅴ 探究力・問題解決能力・教育課題の認識に関する内容 ☐</td></tr>
<tr><td rowspan="2">これから重点的に取り組みたい事柄（箇条書き）と
その説明（200 字程度で記述） を記入して下さい。

※枠の高さや、箇条書きの数は、各自で増やして構いません</td><td>重点的に取り組みたい事柄（箇条書き）
・
・</td></tr>
<tr><td>詳しい説明（記述）</td></tr>
</table>

４年次前期（３年次の振り返りと４年次の目標）

１年間の振り返りとこれからの目標を記入しましょう。その際、教職・教科に関する学修の履歴表（１）で記入したⅠ～Ⅴに関する自己評価も参考にして下さい。

積極的に学修をおこなった項目 （該当するものに☑） 複数回答可	Ⅰ 教職に対する理解や使命感に関する内容 ☐ Ⅱ 生徒理解・学級経営・特別支援に関する内容 ☐ Ⅲ 社会性・人間関係構築能力・学校内外との連携に関する内容 ☐ Ⅳ 教育課程・学習指導要領・教科内容と方法に関する内容 ☐ Ⅴ 探究力・問題解決能力・教育課題の認識に関する内容 ☐
教職課程での学修を進めるために取り組んだ事柄（箇条書き）とその説明（200 字程度で記述）を記入して下さい。 ※枠の高さや、箇条書きの数は、各自で増やして構いません	取り組んだ事柄（箇条書き） ・ ・
	詳しい説明（記述）
課題が残った項目 （該当するものに☑）	Ⅰ 教職に対する理解や使命感に関する内容 ☐ Ⅱ 生徒理解・学級経営・特別支援に関する内容 ☐ Ⅲ 社会性・人間関係構築能力・学校内外との連携に関する内容 ☐ Ⅳ 教育課程・学習指導要領・教科内容と方法に関する内容 ☐ Ⅴ 探究力・問題解決能力・教育課題の認識に関する内容 ☐
これから重点的に取り組みたい事柄（箇条書き）と その説明（200 字程度で記述） を記入して下さい。 ※枠の高さや、箇条書きの数は、各自で増やして構いません	重点的に取り組みたい事柄（箇条書き） ・ ・
	詳しい説明（記述）

C 履修状況一覧　1 教職に関する科目

教職に関する科目で履修した科目（不可、未修を含む）について、以下の必要事項を記入すること

	授業科目名	教員名	履修年次	評価	履修についての自己評価・省察
	＜記載例＞ 教職概論	●●、○○、 ◆◆	R1	優	教職の意義や服務規定について、自分なりに基本的な理解ができ、教師像を描くことができた
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					

※欄が足りない場合は、付け足して構いません。

履修状況一覧　2　教科に関する科目

教科に関する科目で履修した科目（不可、未修を含む）について、以下の必要事項を記入すること

	授業科目名	教員名	履修年次	評価	履修についての自己評価・省察
	＜記載例＞ 物理学概論	●●、○○、 ◆◆	R1	優	苦手な分野であったが，物理学の基礎的知識を習得し，理解を深めることができた。
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					

※欄が足りない場合は、付け足して構いません。

D 活動の履歴

1-1　介護等体験前　　記入：社会福祉施設

記入日　　年　　月　　日

1　社会福祉施設での体験

① 日程

② 場所（施設名）

2．介護等体験を行うにあたっての目標

1-2　介護等体験後　　記入：社会福祉施設

記入日　　年　　月　　日

介護等体験を通して目標の達成具合、考えたこと、学んだこと

１-１　介護等体験前　　記入：特別支援学校

記入日　　年　　月　　日

１　特別支援学校での体験

① 日程

② 場所（学校名）

２．介護等体験を行うにあたっての目標

１-２　介護等体験後　　記入：特別支援学校

記入日　　年　　月　　日

介護等体験を通して目標の達成具合、考えたこと、学んだこと

2-1　教育実習前　　記入

記入日　　年　　月　　日

１．実習の概要 ① 日程 ② 場所（学校名）	**２．不安に思っていることを書いてください。**
３．教育実習にあたっての目標	

2-2　教育実習後　　記入

記入日　　年　　月　　日

教育実習を通して目標の達成具合、考えたこと、学んだこと

E 自主的な活動の履歴　一覧

✏自主的に参加したり、取り組んだ活動があれば、一覧表に記載をしてください。また、活動を通じて作成した資料（例えば、「学習指導案」）、あるいは収集した資料があれば、学びの履歴として、ポートフォリオに、添付してください。

番号	日時	事項	内容
	（例）R2 年 5 月 13 日（水）	水曜倶楽部での模擬授業	水曜倶楽部にて模擬授業を実施し、参加者から感想、意見をいただいた。
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

自主的な活動の履歴　資料

✏自主的な活動を通して作成した資料、または収集した資料などを、添付しましょう。

✏「自主的な活動の履歴　一覧」との対応関係が分かるように、通し番号を右上に付してください。（添付資料は、コピーしたものでもかまいません。）

（添付例）

② 自主的に参加した活動を通して収集した資料

②模擬授業を実施するために作成した指導案

【教職課程を通じての学びの振り返り】（最終レポート）

※履修最終年「教職実践演習」で行う後期の全体講義の中で記入予定（返却後はポートフォリオに各自綴じること）

ポートフォリオを見返しながら、教職課程の学びを振り返り、学びの成果と課題をまとめましょう。

✏教職課程を通じて、特に努力したこと（学びの成果）を書きましょう。

✏現在の自分の課題として残っていることを書きましょう。

✏教職課程で学んだことを、今後どのように活かしていきたいか、書きましょう。